

岡部研究会「研究論文概要集」(2005年度秋学期)について

岡部研究会では、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2005年度秋学期のものであり、このシリーズの第13号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究会1「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究会2「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」の二つであり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。今回の概要集には三つの特徴があります。第一に、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議において報告され（今回は2006年1月14～15日に湘南国際村で開催）、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。第二に、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されることです。これら二つは第3号以降と同様ですが、このほか第三に、今回はすべての論文につき、その概要のほか、目次あるいは論文の中で最も重要な図表等も併せて掲載していること（一つの論文に2ページを割当てていること）です。

本書を刊行する理由は二つあります。第一に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があることです。第二には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、過去の「概要集」の目次は、岡部研究会のウェブサイトに掲載してあります（アドレスは下記）。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの（各研究会1編、合計2編）は、従来どおり、単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のような岡部研究会優秀論文は、それぞれすでに刊行されており、論文全文をインターネット上からダウンロードすることができます。

2006年1月

総合政策学部

岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/okabe/>

目 次

研究会 1

決済業務と情報技術革新の分析--金融におけるプラットフォームの競争-- (藤原史義) - - -	6
地域金融機関の収益性--Relationship bankingの収益性に関する理論的考察-- (岸本庄史) - -	8
欧州における金融政策策定プロセス (宇佐美奈穂) - - - - - - - - - - - - - - - - -	10
機関投資家によるコーポレート・ガバナンス--年金基金を中心に-- (大澤康之) - - - - -	12
日本企業におけるM&Aの意義--効率性・安定性の視点から-- (関 晋也) - - - - - - - - -	14
ベトナムにおけるマクロ経済と金融のアンバランス (室田侑嗣) - - - - - - - - - - -	16
学校教育における経済金融教育--日本・アメリカ・イギリスの事例-- (細井陽子) - - - - -	18

研究会 2

証券取引所の組織形態に関する理論分析 (千野剛司) - - - - - - - - - - - - - - - - -	22
生命保険業における従来型募集枠の限界とあたらしい募集枠の提案 (栗本雅也) - -	24
食料自給率に関する多面的検討 (村上淳也) -	26
所得階層ごとにみた家計の危険金融資産選択に関する実証研究 (永井裕二) - - - - -	28
地域経済活性化に向けた取り組みとその課題 (梅原 隆) - - - - - - - - - - - - - - -	30
デフレ対策としての金融の量的緩和政策とその評価 (加藤祐子) - - - - - - - - - - -	32
スポーツクラブのコーポレートガバナンス (木上貴史) - - - - - - - - - - - - - - -	34
地方分権化時代における地方財政 (喜多康平) -	36
人口減少・少子高齢化社会における企業の雇用 (黒須隆寿) - - - - - - - - - - - - - -	38
日本におけるインターネット証券取引の現状と課題 (鈴木麻里絵) - - - - - - - - - - -	40

日本銀行の金融緩和政策への分析と評価（田中竜二郎）	42
公的年金積立金運用におけるSRI導入の可能性（塚越博基）	44
NPO活動のマクロ経済的評価--GDP統計の検討を中心に--（吉富 明）	46
化粧品の適正価格（石関芙美子）	48